



聖日(わかば)礼拝

今週のみことは

「良い地に蒔かれたものとは、みことばを聞いて悟る人のことです。：百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。」

マタイ一三・二三



司会者	渡邊貞雄師	奏楽者	渡邊頼子師
讃美イ385	いのちのみことば	—	同
讃美新324	主と主の言葉に	—	同
報告	(お祈り&お知らせ)	—	同
聖書	マタイ13:1~23	司会者	
ビデオ	(映像による聖書の参照)		
讃美新291	神の国と神の義を	—	同
説教	『地に落ちた四つの種』	渡邊貞雄師	
献金新41	み言葉をください	福田紀子姉	
頌栄新63	父、御子、御霊の	(起立)一同	
祝禱		渡邊貞雄師	

受=小坂姉 / 操=中川兄 / A=北村兄 / 報=牧師

〒515-0044 三重県松阪市久保町 1445-7 COG 松阪キリスト教会
TEL 0598 (29) 1780 主任牧師 渡邊貞雄
FAX 0598 (29) 1791 牧師 渡邊頼子

2023年10月8日 VOL47-41 No.2449 URL <http://matukyo.com/>
Email sadao@mctv.ne.jp

ご報告・消息欄

- ▼ 今朝の聖日は「わかば礼拝」です。聖書の動画も一緒にご覧ください。
- ▼ 10月号の「中部教区CCPN誌」ができました。覚えてお祈りください。
- ▼ 来週も新型コロナ等のために、組会は持たれません。礼拝からお出で下さい(礼拝テキストはあります)。
- ▼ 来週10月15日(日)午後2時から、「第36回東海聖化大会」が持たれます。「YouTube」でもご覧いただけます。別紙のご案内の箇所に

おつなぎください。

- ▼ 使用中のメーリングが「らくらく連絡網+」となります。色々ご心配をおかけしました。再度、今週中に各個人宛に登録のご案内メールを送信の予定。届きましたら、よろしく。



にれ はみ

2023年10月1日
聖日礼拝
ヨシュア5:13~6:27
『エリコの城を回れ』
説教 渡邊貞雄 師



5章には神の民に割礼を施し、「過越の祭」を守ったこと。さらに「目を挙げてみると…」(13)とあり、ヨシュアの前に武装した神の使いが現れて、激励し整えてくださった。

I、「回れ」(信仰の継続性)

「信仰によって…人々は」(ヘブル11:30)とあるが、信仰の大切な要素を考えてみよう。ここに「回れ」(3、4)と7回も出てくる。神は一週間に一日一回、最後は七回るように命ぜられた。しかも戦士、祭司、ヨシュアも全員の行動ととしてであった。

ここに力と恵みに満ちた信仰の生涯の秘訣がある。救いは瞬時的な経験だが、それを保つためには、日々退屈なほどの繰り返しが必要とされていないだろうか。それが感動ではなく信仰の基本である。この「恩寵の手段」とは、聖書を読み、祈りをささげ、愛の奉仕で人に仕えることを、淡々と継続する大切なことなのだ。

II、「進め」(信仰の純粋性)

「進む」との神の命令が8回ほどある。並び進む順序があり、黙々と回るとの条件も要求された。神は戦う前にヨシュアへ「勇士たちを…手に渡した」(2)と語られた。この言葉は完了形で、

既に勝利したように宣言されている。道半ばでこれからどうなるとの不安がよぎる時、神は「進む」者たちに既に、勝利したと宣言されるお方である。地上の生涯には様々な戦いがある。羊を狼の群の中に送り出すような困難の中にも、この勝利の主が私たちとともに居られることを自覚し、認識する信仰をい따ごう。

III、「声をあげよ」(信仰の共同性)

途中で声をあげることは禁止だが(10)、最後の日に角笛の音とともに、民は一斉に大声、勝ちどきの声、勝利の声をあげた。その時に堅牢なエリコの城壁は内側から外に崩れ落ちた。これは私たちが心を合わせ、声を合わせて信仰の祈りを捧げることの意味している。一人一人は力なく弱い存在でも、一つ心でささげる祈りに主は御力を現してくださる。もし私たちが敗北したのなら、この営みが崩れたままの霊的戦いなのではと省みよう。祈りからその姿勢を立て直し進もう。

城壁を崩されたのは神。この「回れ」「進め」「あげよ」の大切なルールを心に刻み困難で複雑な課題にも、長くグルグル付き合う問題にも最後には、見事に崩れる勝利の経験をいただごう。

「おわり」から「はじめる」私たちの祈り (1)

◇司会者と ◆会衆が交互に祈り、「一同」とある箇所は全員で祈ります。

1 「おわり」を見つめることができるように

- ◇(司会者) やがて栄光の主として来られ、天地を新たにしてくださる世界の完成者なる神さま。
- ◆(会衆) 私たち聖書信仰に立つ日本の教会が、京都会議から神戸会議まで6回の伝道会議を重ねて宣教協力を深め、国内外の福音宣教の働きに参与させていただいてきたことを感謝します。私たちは、宣教の主ご自身がみわざを前進させてくださることを信じ、主への期待をもってこの祈りを御前にささげます。(解説(1))
- ◇今、私たちは「おわり」の時に立っています。民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、平和が脅かされています。大きな地震があり、深刻な飢饉や未知の疫病が起っています。
- ◆環境破壊が急速に進み、災害が甚大化しています。世界の各地で起きている迫害や紛争も深刻です。あらゆる分断が世界を覆い、格差の拡大に、貧困に、倫理の混迷に世界中が痛み、うめいています。(解説(2))
- ◇教会が直面している困難も多面的かつ深刻です。多くの教会で高齢化が進み、献身者の減少が顕著です。兼牧や無牧の教会が増え、教会の合併や閉鎖、奉仕者の燃え尽きが止みません。(本書第9章参照※)
- ◆新型コロナウイルスの蔓延もたらした交わりの課題や経済的な困難もあります。さらには、キリスト教から生まれた異端・カルトにより家庭が崩壊し、心も体も傷ついている人々が多くいます。(本書第1章、第7章)
- 一同：主よ、私たちが違わされているこの時代の現実から目を背けることなく、聖霊なる神に探られ、教えられて、悔い改めと主への信頼に生きることができるよう助けてください。「おわり」の日の幻を見つめ、希望をもってあなたにお仕えします。私たちをあわれんでください。

2 立場を越えた宣教協力を「はじめる」ことができるように

- ◇私たちをご自身のかたちとして造られた創造主なる神さま。
- ◆この世に生を受けたすべての人が、神によって与えられたいのちのゆえに、尊厳をもって福音に生きることができるようになってください。
- ◇家庭や学校で、声を上げることができないまま苦しむ子どもたちに気づき、手を差し伸べることができるようになります。
- ◆若い魂が主と出会い、神に由来する自分の存在意義をはっきりと知ることにおいて健全に成長し、学ぶこと、働くこと、そして遊ぶことを通しても、主を賛美する者となりますように。キリスト者の豊かな交わりに生かされ、聖書が語る希望に人生の土台を据え、生涯を通して神との確かな関係に生きることができるようになります。(解説(3)、(4))

27

◎10/4 (水) 祈禱会「ラハブー族の救い」
渡邊師 ヨシュア6:22~25
ここには、異邦のラハブー族ではあったが、窓に赤い紐を吊していたので、侵攻の時に「父、母、兄弟…すべての者…親族」(23a)が救い出された記録を見る。最初は「イスラエルの宿営の外にとどめおいた」(23b)とあるが、その後「イスラエルの中に住んで」(25)とある。私たちも信仰の始めは場違いのようで、慣れないゆえに居心地の良さを経

験しなかったかもしれない。しかし、ラハブー族は、やがてイスラエルの民とともに住み、交わりと豊かな関係を持ち、主イエスの子孫になる祝福された者となった。この驚くべき恵みと特権に、大きな感謝をささげようではないか。(祈禱会の後半は、JCE7の恵みを分かち合いました)。



「今後の集会予定／教会情報」

◎10/11(水) 定例祈祷会 (PM7:00)

◎10/14(土) 清掃奉仕 (AM9:30)

~~◎10/15(日) 楽しい組会 (AM10:00)~~

◎10/15(日) 聖日礼拝 (AM11:00)

◆ 祈祷会(司)中川兄(説)頼子師

● 来週礼拝 ルカ10:25～37

● 主 題『良きサマリア人』

定期集会のご案内

◇楽しい組会(日) 午前10:00～10:45

◇聖日礼拝(日) 午前11:00～12:00

◇早天祈祷会(火土) 朝6:30～7:00

◇祈祷会(水) 午後7:00～8:15

来週 の 奉 仕 者

◎ 礼拝司会 中西兄

◎ 礼拝奏楽 頼子師

◎ 礼拝献金 岡山姉

◎ 受 付 福田姉

▽ 教会学校 随 時

▽ ヤ ン グ 随 時

▽ さー来る① 当 日

▽ さー来る② 当 日

▽ さー来る③ 当 日

▽ 昼食当番 な し

▽ アッシャー 小坂姉

▽ S S 入力 真理姉

▽ PPT操作 山口姉

《《《2023年 松阪教会スローガン「乗り越える！」(十)プラス》》》
「ヨセフは実を結ぶ若枝…その枝は垣を越える」(創49・22)

礼拝の心得

- ① 聖書のヨハネ4:24に「神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」とあります。
- ② 始まる時間と5分前の着席を心がけ、奏楽や賛美を聞きながら心の準備をし、待ち望みましょう。
- ③ 賛美は感謝の心をもって、主をたたえつつ歌いましょう。
- ④ 語られる言葉(メッセージ)の背後にある、神のことばに耳を傾けましょう。
- ⑤ 献金は神への感謝を具体的に表現するものです。心から喜んでおささげしましょう。
- ⑥ その他、携帯音を止めておいたり足音や会話にも心を用いて出席しましょう。
- ⑦ やむを得ず礼拝を休む場合は、牧師(教会)に連絡をしましょう。

